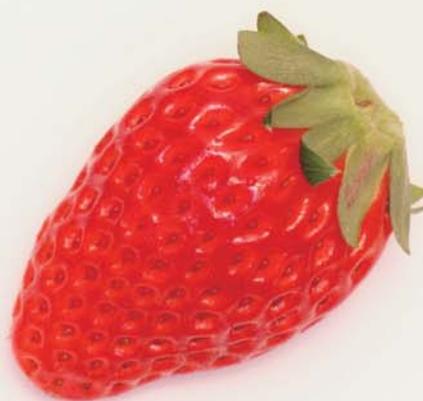


メイドイン北海道の技術で、  
食の可能性を拓く。

---

株式会社 ASCe (アスク)

---





柔軟な発想で新しいおいしさを創造。

「液体の圧力で注入する」新発想のニードルレスインジェクターで、針洗浄や金属探知の手間を解消。おでんの具やイチゴなどへの応用例を通して新しいおいしさの可能性を示し、インジェクターとは無縁だった業界の関心も引き寄せました。



## 株式会社 ASCe (アスク)

本社 札幌市白石区菊水元町6条3丁目1-17  
 TEL 011-879-5228  
 URL <http://www.asce-g.com/>  
 主要事業 2004年創業。自動車や電気・電子機器などの製造機械などの開発・設計・製造を行う。2008年頃から菓子・食品などの加工機械の開発にも着手。針を使わない液体注入装置「ニードルレスインジェクター」は現在特許出願中。

代表取締役 後藤 亮太

## リーマンショックを機に食品業界へ進出

大手電機メーカーで液晶パネル検査装置などの開発に携わっていた後藤亮太氏が独立したのは2004年。「自分の手で新しいものを作りたい」と小さな事務所を借り、後輩とふたりでASCe(アスク)を立ち上げた。電子デバイスや自動車関係の装置設計の仕事をメインに順調に業績を伸ばしていた矢先、リーマンショックが発生して仕事が激減。この時から、手がけ始めていた食品関連業界の仕事に一層重点を置くようになったという。

あるビジネスセミナーで札幌の洋菓子メーカー「きのとや」の社長と知り合い、「面白い会社だね。明日来てくれるかい。」の一言で仕事が決まった。最初に作ったのはプリン洗瓶ライン。それが実績となって他の菓子メーカーや食品メーカーとの取引も増え始めた。クッキー生地切断機やスポンジスライサー、麺帯熟成ライン、ハンバーグ成型機などさまざまな機械を手がけ、現在では売上の約半分以上を食品加工機械が占めるまで成長した。

## 食品関連産業の特性を見きわめたアプローチ

「ここに至るまでにはたくさんの失敗から得た学びがありました。」と後藤氏は言う。「これまでに培った自動制御技術はほぼ活かすことができましたが、自動車や半導体とは異なる食品の性質に最初は戸惑いました。その日の温度や湿度で状態が変化してしまうし、衛

生面にも気を遣いますね。毎日洗浄するものだから洗いやすい構造も大切です。」さらに、食関連産業の特性に合わせたセールスもポイントだ。「お菓子はメーカーごとに作り方が違うため、汎用機でカバーできない部分が多い。だから小回りが効く地場の装置メーカーには興味を持っていただけることが多いですね。ただし自動車と違って菓子製造ラインはひんぱんにモデルチェンジするわけではないので、設備投資は大きくありません。だから複数のメーカーへのこまめな営業が不可欠です。とはいえ、メーカーごとにひとつずつ機械を作っているだけでは利益率が上がらない。いずれ会社の柱となるオリジナル製品を確立できるよう、公的補助金制度も活用しながら新製品の開発に取り組んでいます。」

## 「ニードルレスインジェクター」がひろく食の可能性

こうした取り組みから生まれた新製品「ニードルレスインジェクター」がいま注目を集めている。ハムや漬け魚の加工では注射針で調味液を注入するのが一般的だが、細い針の洗浄は手間がかかる上、曲がったり折れたりしやすく、商品への金属混入の危険もある。そんな悩みを水産加工会社社長から聞き、針を使わずに液体の圧力で注入する機械の開発を思いついた。「高圧なので装置の強度や剛性が求められる一方、洗浄しやすいよう簡単に分解できる構造が必要。北海道経済産業局の新連携支援をいただき、食品加工技術セン

ターのアドバイスを受けながら試作を繰り返して、完成にこぎつきました。」すでに岩手の水産加工会社への導入が決定。今まで注入加工とは無縁だった業界も興味を示している。「味をしみ込ませるのに時間がかかるコンビニのおでんや鶏唐揚げの下味付けも短時間でできる。農産物への応用としてイチゴにコンデンスミルクを注入したら、今までにないおいしさでした。ここから新しい食文化が生まれるかもしれません。」さらに現在は飲食店やコンビニの汁物供給機の開発も進行中。「新しいものを作ることが楽しくてしかたがない。」と目を輝かせる後藤氏のアイデアは尽きることがない。

## 目標は農業の自動化。チャンスは誰にでもある

将来の目標は農業の自動化。「食糧自給率200%あまりの北海道で“食”は絶対に外せないキーワード。重労働で付加価値の少ない農業に省力化と加工の両面からアプローチし、若年層の取り込みや6次産業化につながれば。」と後藤氏は語る。「食に関わるものづくりを支えているのは、北海道がこれまでに集積してきた自動車部品や電気・電子機器などの製造技術に他ならない。だからチャンスは北海道のすべてのメーカーにあるはずですよ。」

社名の「ASCe(アスク)」はascend(上昇)とsuccess(成功者)を組み合わせた造語。ふたりの青年が夢見たものづくりの未来がいま、北海道の希望になろうとしている。